

《金子みすゞ感想文 最優秀賞===== 新居浜市立泉川中学校 2年 阿部紘人》



イラスト 尾崎慎吾

「金子みすゞ童謡全集」
JULR出版局より

「こだまでしょうか
いいえ、誰でも。」

「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていう。

「さみしくなって、
さみしくなって、

「もう遊ばない」っていうと
「遊ばない」っていう。

「馬鹿(ばか)」っていうと
「馬鹿」っていう。

「遊(あす)ぼう」っていうと
「遊ぼう」っていう。

こだまでしょうか

「遊ぼう」っていうと「遊ぼう」っていう。から始まる有名な詩を作った金子みすゞさんの詩を読み、僕は、とても深いものを感じた。

まず、最初に読んだ詩は、「わたしと小鳥とすずと」だ。この詩は、物や生物には、それぞれ、良いところがあるということを伝えているように感じた。そして、この詩の最後に「みんなちがって、みんないい」と書かれている。その言葉には、物や動物の価値は一つではなく、その中の一つの価値が劣っていたとしても、その人の良さは失われない、ということ、思い出させてくれているように感じた。

そして、次に「こだまでしょうか」という詩を読んだ。この詩はCMでも放送され、知っている人も多いだろう。だが、あまり深く考えずに聞く人は、多いだろう。しかし、この詩にも、とても深いことが書かれているのだ。けんかなどの争いがおこる理由は必ずある。そして和解するきっかけも必ずある。つまり、物事の始まりや終わりは、一方の行動に始まり、その行動から、もう一方の、感情が生まれる。「ばか」と言われたら、怒りの感情が生まれ、「ばか」と言い返してしまう。「ごめんね」と言われると、仲直りをしたいという相手の感情が流れ込んできて、自分も謝りたくなり「ごめんね」と返す。そういう、人間の感情を表しているように思えた。

金子みすゞさんの詩は、いろんな人の感情を理解していて、いろいろな観点から、物事を見ているため、とても奥の深い詩が多い。考えて読めば読むほど、新しい発見があり、自分なりの考え方も生み出すことができる。

僕が詩を作るときには、金子みすゞさんの詩を参考に、いろんな角度から物を見て、自分なりの考え方をもって、当たり前のことの一つ一つ思い出せるようにしていきたい。

平成29年度・金子みすゞ感想文・感想画が数多く寄せられました。順次紹介いたします。
新居浜市の小・中学生の作品をご覧ください。



よふけのお空を読んで 最優秀賞
金栄小学校3年 下田琴子



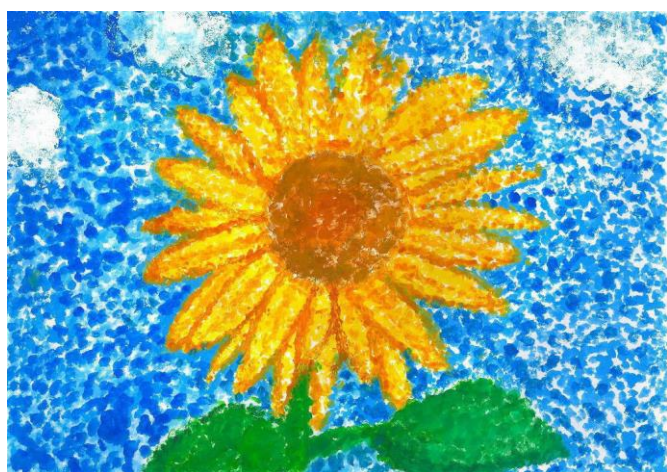
竹とんぼを読んで 最優秀賞
金栄小学校5年 浦川明日



星とたんぼぼを読んで 最優秀賞
泉川中学校2年 星加彩友美



星とたんぼぼを読んで 優秀賞
金栄小学校1年 八木春樹



ひまわりを読んで 優秀賞
金栄小学校4年 天野 静



大漁を読んで 優秀賞
角野小学校5年 竹林拓斗

定例会日時のお知らせ

☆日時：毎月第3木曜日 AM10時～12時30分まで
☆場所：新居浜市まちづくり協働オフィス

[Tel/0897-65-3158](mailto:info@niihama-kyodo.jp)/[Fax0897-65-3157](mailto:info@niihama-kyodo.jp)/info@niihama-kyodo.jp ・[090-5642-7809 yuyu1221@cream.plala.or.jp](mailto:yuyu1221@cream.plala.or.jp)(矢幡)

エッセイ募集

☆私の好きなみすゞの詩
☆どしどしご投稿下さい。

